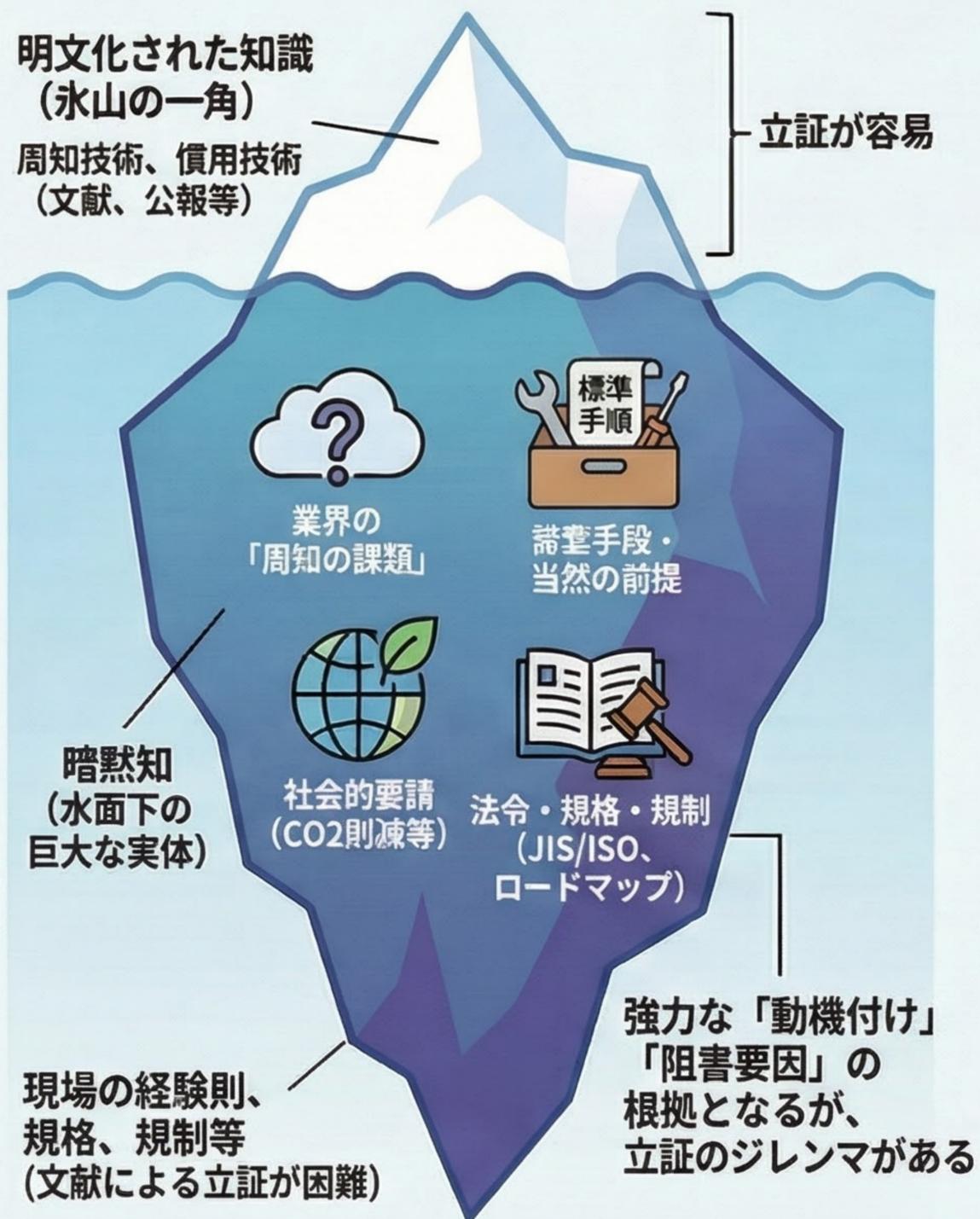


進歩性否定を跳ね返す！技術常識等を踏まえた特許明細書作成の戦略的指針

【技術常識等の正体】 見えざる先行技術の冰山



【進歩性判断における4つの介入類型】 技術常識の介入フロー

類型1：本件発明の認定 (用語解釈)
 抽象的な用語を、技術常識をフィルターに具体的構造へ限定解釈
 (例：「分割織加工物」→「バリ」)

類型2：引用発明の認定 (構成の補完)
 引用例に未記述でも、技術常識から「当分偏わっている」と補完し、相違点ではないと判断

類型3：副引用例の適用 (動機付け)
 分野が異なっても、共通の社会的要請・周知課題があれば、技術を組み合わせる強い動機付けとなる

類型4：相違点判断 (設計事項・阻害要因)
 相違点が単なる数値量差化 (設計事項) か、業界前提による変更困難な要因 (阻害要因) かを判断

【実践】強い明細書を作るための5つの指針

- ☑ 指針1：常識的效果と「特有の効果」を峻別せよ
 当たり前の効果は隠さず、特定の組み合わせによる予測不可能な根拠効果を対比データで明記。

弱い明細書	vs	強い明細書
弱い：主観的な独創性、定性的な記載のみ。	vs	強い：技術常識効果と区別、質的・重的な差をデータで明示。
- ☑ 指針2：「阻害要因」を戦略的に文書化せよ
 設計変更が図鑑だった理由 (強度低下等) を背景技術に記載し、後知恵による容易な論理を運断。

弱い	vs	強い
先行技術を周知技術のわせと認定される余地を残す。	vs	数捕範囲の変更できない理由(阻害要因)を明記。
- ☑ 指針3：数値の「臨界的意義」をデータで裏付けよ
 数値範囲の上限・下限で効果が劇的に変わることを実験データで充実させ、単なる設計事項扱いを回避。

弱い	vs	強い
好運化と見なされる単なる数値を規定。	vs	数値範囲の裏面をデータと共に明記。
- ☑ 指針4：課題の「過度な上位概念化」を阻止せよ
 課題を抽象化せず、特定の構造や環境に起因する個別具体的かつ特殊なメカニズムとして詳細に記述。

弱い	vs	強い
「社会的要請」などを単独の課題とする。	vs	課題の非共通性 (個別課題) を主張。
- ☑ 指針5：出願時の技術水準を「歴史的記録」として残せよ
 AI等の進歩が早い分野では、当藩の暗黙知や未解決の問題をあえて明記し、将来の認識のズレを防ぐ。

弱い	vs	強い
周知技術の単なる組み合わせとして認定される余地を残す。	vs	構造の本質的差異 (例：陸上車両とドローン) を明示。